

5月19日(火)

真の自由

聖書朗読 ヨハネの福音書 11:45～57

ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

ヨハネ 8:36

ユダヤ人たちは過越の祭りを祝うためエルサレムに集まっていました。この祭りは、神様がイスラエルの民をエジプトの奴隷状態から解放したことを覚えるために定められたものです。それは自由を祝う祭りでしたが、果たして彼らは本当に自由だったのでしょうか。

ヨハネは、人々がイエス様を探して、イエス様が来られるだろうかと思っていたと伝えていきます。おそらく、バプテスマのヨハネが『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』と言った時のことを覚えている者もいたでしょう。

ほんの数日前、イエス様はラザロを死からよみがえらされました。皮肉にもこれが転機となり、指導者たちはイエス様を殺害しようと決めたのです。(ヨハネ11: 53)民が過越の祭りの準備をする中、指導者たちは真の神の小羊^{ほふ}を屠る準備を進めていました。群衆はローマ帝国からの政治的自由を切望していましたが、イエス様はより深い自由をもたらすために来られたのです。いかなる支配者も、牢獄も、鎖も奪い去ることのできない自由です。真の過越の祭りが目前に迫っており、真の自由が現実になろうとしていたのです。

讃美歌 309 つみのなわめ 解きにし神よ

祈り 救い主であられる私たちの主よ、この地上で愛をもって生きられたそのご生涯、自らいけにえとなって捧げられた死、そして私たちに希望を与えてくださるよみがえりに感謝します。今日、私たちの命は、あなた様の御手の内にあります。イエス様の御名によって。アーメン。



テキサス州 ラボック / チャック・ブライアント

5月20日(水)

勝利の王をお迎えする

聖書朗読 ヨハネの福音書 12:12～19

シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子のろばに。
ゼカリヤ 9:9

非情な独裁者による残酷な政権下で暮らすことを想像してみてください。自由は奪われ、財産は没収され、飢えと恐怖に満ちた生活。そんな中、解放者が来たというニュースが広まります。人々は、彼を迎えに駆け寄り、手を振り、叫び、泣き、歌い、希望に満たされます。

これは正に、イエス様がろばの子に乗ってエルサレムに入城されたとき、エルサレムで起こった出来事です。エルサレムの人々は、彼らの王が自分たちを解放するために来られたと信じて「ホサナ」と叫びました。確かに王なるイエス様は来られましたが、でも、人々が期待していたように来られたのではありませんでした。イエス様の勝利は剣や王座によってではなく、犠牲によるものでした。イエス様の血はいかなる帝国も与えられない自由を獲得しました。

私たちは最も残酷な支配者である罪そのものによって奴隷にされていました。しかし、征服者たるイエス様は、単にエルサレムに入城されるだけではなく、私たちの心に、赦し、自由、永遠の勝利をもたらすために来られました。

かつてエルサレムの群衆は「ホサナ」と叫びました。今日、あなたは、あなたの王をどのようにお迎えしますか。

讃美歌 130 よろこべや たたえよや

祈り 勝利の王、イエス様。感謝の気持ちを込めて、あなたの御前にひれ伏します。私たちの心は勝利の歌を歌い、あなたが私たちを解放してくださったこと、そして、今日もなお解放し続けてくださることを喜びます。イエス様のお名前において。アーメン。

コロラド州 ロングモント / シール・ボーエン

5月21日(木)

新しい戒め

聖書朗読 ヨハネの福音書 13:31～35

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ヨハネ 13:34～35

愛をどのように表現しますか。キャンディー、花束、チョコレートをプレゼントしますか。こういったものは、場合によっては効果がありますが、一時的なものでしかありません。真の愛は親切や献身といった日常的な行ないのうちによくあるものです。

イエス様は、神様への愛をご自身が示されたのと同じように、つまり神様の戒めに従うことによって、私たちも示すべきだと教えられています。イエス様が十字架の死にまでも従われたのは、父なる神様こそがすべてを最もよくご存知であるという信頼に根ざしていました。ただ理解するだけでなく、愛し従うことが重要だったのです。

神様は私たちからチョコレートや花束あるいは業績を求めていらっしゃるのではありません。心から神様に従い信頼することを求めていらっしゃるのです。

多くの人が未だに悩み、探し求め、なかなか前に進めないのは

まだ自分自身の限界に達していないからだ

私たちはまだ他人に命令を下そうとし

自分たちの内なる神の働きを妨げているのだ

神を何よりも愛したその瞬間、平安が訪れる — A・W・トウザー*

(*編注:アメリカの牧師、著者、編集者。1897-1963)

讃美歌第二編 185

祈り 親愛なる主よ。真の愛をもって、心と魂のすべてをあなたに捧げられるよう助けてください。あなたへの愛を周りの人たちと分かち合えますように。イエス様のお名前において。アーメン。

テキサス州 ラボック / ロドニー・トーマス

5月22日(金)

毎日を誠実に生きる喜び

聖書朗読 ヨハネの福音書 15:1～11

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。 ピリピ 4:4

喜びについて考えるとき、私たちは結婚式やバプテスマ、思いがけない祝福といった大きなお祝い事を思い浮かべがちです。しかし、真の喜びとはまれにあることではなく、ずっと続くものであることを、イエス様は思い起こさせてくださいます。ぶどうの木とつながっていることで実を結ぶ枝のように、日々主にとどまっていることが真の喜びなのです。

ときには、その喜びはごく普通のこと、たとえば洗濯物を畳みながら讃美歌を口ずさんだり、友人と笑い合ったり、寝る前に静かに祈ったりということのうちにあります。小さなことに誠実であること、つまり奉仕し、赦し合い、励まし合うことは、心に喜びの種を植え、深く根を張ります。

喜びは追い求めるものではありません。それは、私たちが神様にとどまっているとき、神様が私たちのうちに生み出してくださるものです。毎日が同じことの繰り返しで、自分のことなんか誰も気にかけてくれないように思えても、神様は私たちのうちに喜びを形作ってくださり、それは苦難によっても奪われることのない喜びです。

讃美歌 525 めぐみふかき 主のほか

祈り 主よ。そのときどきの状況に左右されて喜ぶのではなく、日々あなたに忠実であることから湧き出る喜びをくださり感謝します。あなたの愛のうちにとどまり、日常の瞬間に喜びを見いだせるように助けてください。アーメン。



コロラド州 デンバー / アンナ・ポーター

5月23日(土)

真 理

聖書朗読 ヨハネの福音書 17:6～19

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。ヨハネ 14:6

『一つとなる』というのは、簡単そうに聞こえますが、“言うは易く行うは難し”です。家族は一つとなろうとしてケンカをし、友情は一つとなることをめぐって分裂し、教会でさえも一つとなるために揉めます。イエス様は十字架にお架かりになる前の最後の祈りで、父なる神様に正にこのことを願いました。すなわち、弟子たちが一つとなるようにと。イエス様は、一つとなった人々こそが、この世に対するご自身の真理の力強い証しとなることをご存じだったのです。

イエス様は、お祈りの中で、イエス・キリストの大いなる証し、すなわち真理とは、一つとなった教会であることを思い起こさせてくれます。真理は、父なる神様とイエス・キリストが一つであることにより成され権限を得ます。恵みと赦しを与えてくださった創造主をこれかもずっと証しするように、私たちは召されているのです。

イエス様は祈られました。『正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。』(ヨハネ 17:25～26)

聖霊を通して、たとえ意見が合わないときでも、すべての人を愛し赦す力を、私たちは天から与えられています。これが主のみことばです。

讚美歌 265 世びとの友となりて

祈 り 親愛なる天のお父様。人知をはるかに越えたキリストの愛を知り、神様ご自身の満ち満ちたさまにまで満たされますように。すべてのご栄光があなたにありますように。キリストのお名前において。アーメン。(エペソ 3:16～20より)

テキサス州 アビリーン / ジュディ・シバート

5月24日(日)

希 望 は 続 く

聖書朗読 ローマ人への手紙 5:1～5

そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難は忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。

ローマ 5:3～4

教え子の一人、ジェイクのことは生涯、忘れません。彼は、私の知っている大人の大半が体験するよりも多くの困難に立ち向かいました。痛みを伴う病気を抱えていたので、授業やスポーツを欠席せざるを得ませんでした。決して不平を言いませんでした。実際、学校では、非常に前向きな態度をもった、そして思いやりのある人として知られていました。あるとき、どうしてそんなに前向きでいられるのかと尋ねると、彼は微笑んでこう答えました。「神様はまだ僕を何とかしてくださるとずっと思っているんだ」と。

ローマ人への手紙5章は、患難は無駄ではないと教えています。患難を通して、神様は私たちの忍耐を生み出し、忍耐を通して私たちの品性を練られ、練られた品性を通して私たちに希望を植えつけられます。その希望は、神様の永遠の愛に根差しているのです。決して失望に終わることはありません。

私たちは苦しみの理由をすべて理解できないかもしれませんが、御恵みの働きを信じることはできます。困難な状況にあっても、神様は働いておられます。私たちの心が神様の御力とあわれみを映し出すよう形作ってくださっているのです。

讚美歌 280 わが身ののぞみは

祈 り お父様。人生が辛いと思えるときに、あなたの御手が働いていることを覚えられますように。私たちの信仰を育て、品性を練り、あなたに希望を置くことができますように。イエス様のお名前において。アーメン。



フロリダ州 デスティン / サラ・クラーク